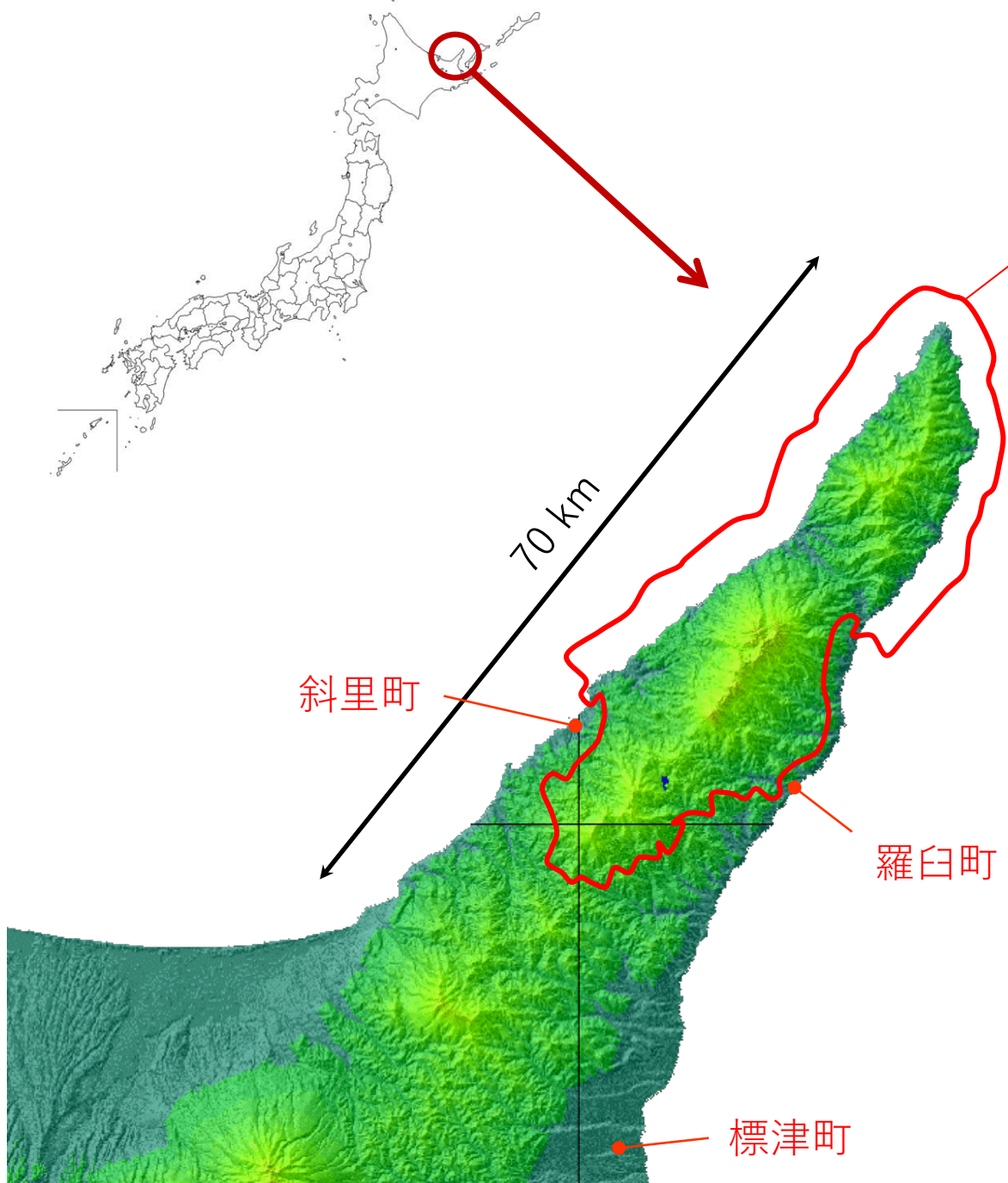


知床におけるヒグマの マネジメントの現状と課題

公益財団法人 知床財団

知床半島

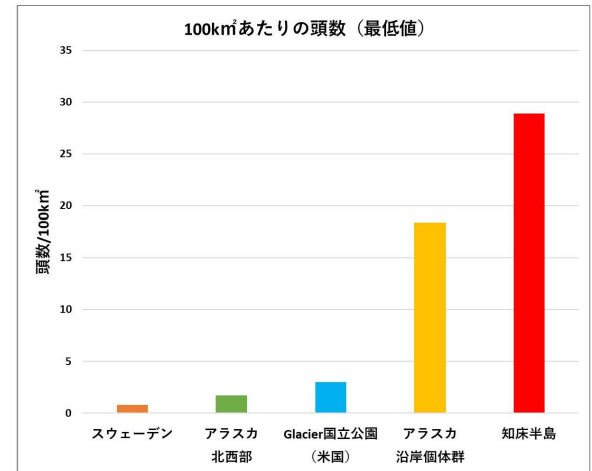


知床世界自然遺産地域

知床半島内に約400～500頭のヒグマが生息

環境総合研究推進費の調査研究より（2019～2021）

世界有数のヒグマ生息密度

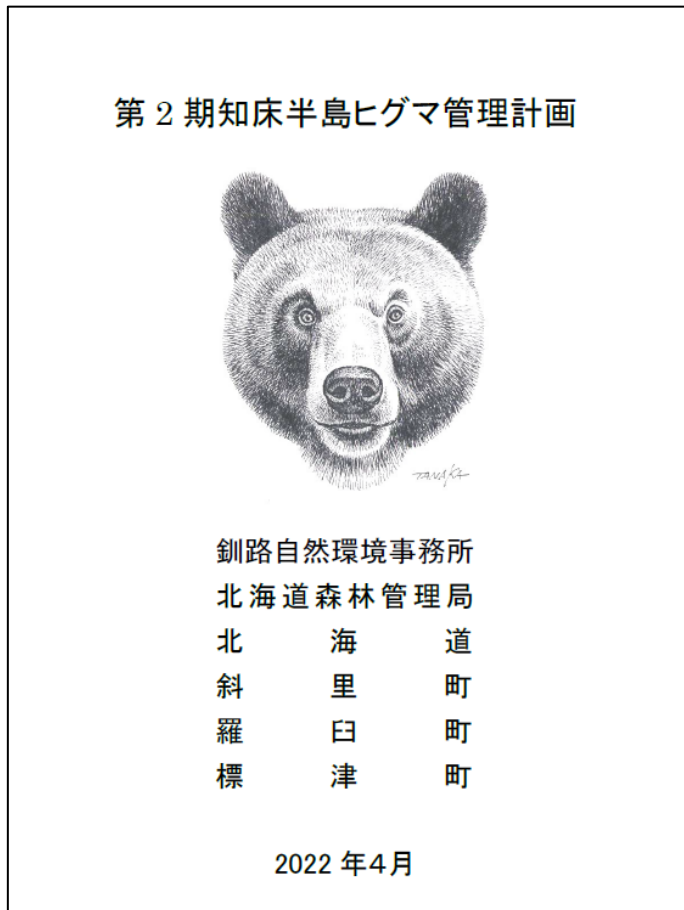


環境総合研究推進費の調査研究より（2019～2021）

知床におけるヒグマのマネジメント

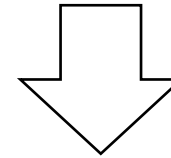
知床半島ヒグマ管理計画

(第二種特定鳥獣管理計画の北海道ヒグマ管理計画の地域計画)



知床世界自然遺産地域 科学委員会ヒグマWG

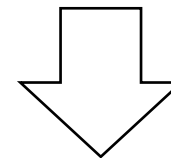
科学的な知見に基づく助言



知床ヒグマ対策連絡会議

(環境省・森林管理局・北海道・3町)

管理方策の決定



斜里町・羅臼町・標津町

管理方策の実施

知床半島ヒグマ管理計画

【目的】

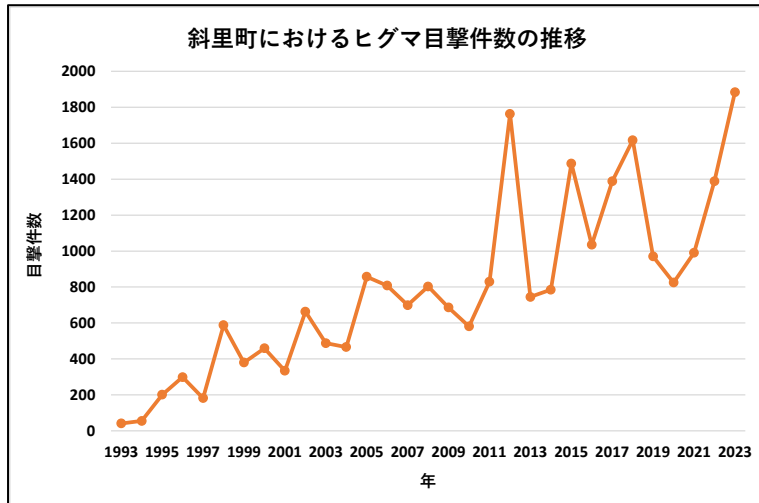
- ・ 住民の生活や産業を守り、利用者の安全と良質な自然体験の場を確保する。
- ・ 知床半島のヒグマの生態及び個体を将来にわたって持続的に維持する。



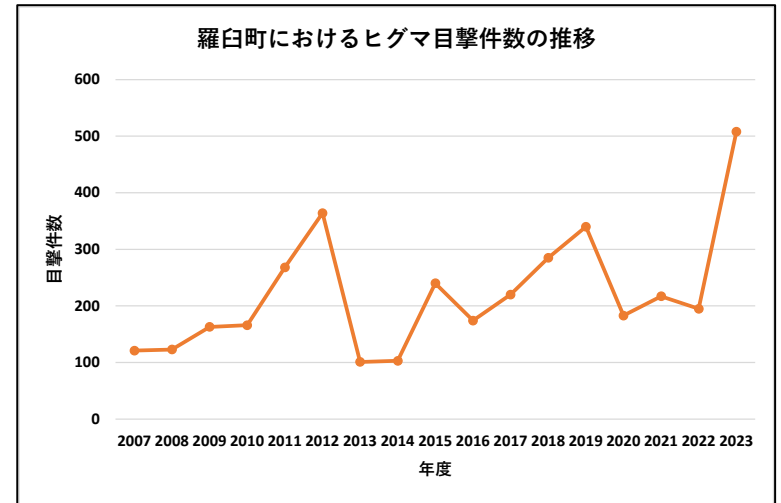
【目標】

- ① ヒグマの人為的な死亡総数を、個体群が持続可能な数に維持する。
- ② ヒグマによる人身事故をゼロとする。
- ③ 人間側の問題行動に起因する危険事例発生をゼロとする。
- ④ ヒグマによる経済的被害を抑制する。
- ⑤ 人とヒグマとの適切な関係を理解・実践できる地域社会を実現する。
- ⑥ 遺産地域において、ヒグマに関係する歩道やキャンプ場等の施設閉鎖の発生件数を減少させ、施設供用の安定化を通じて、安全かつ良質な自然体験の場を確保する。

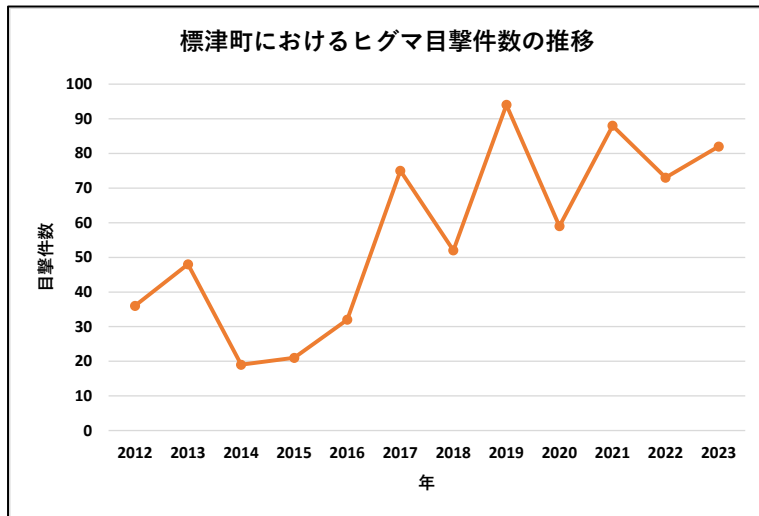
3町におけるヒグマの出没状況



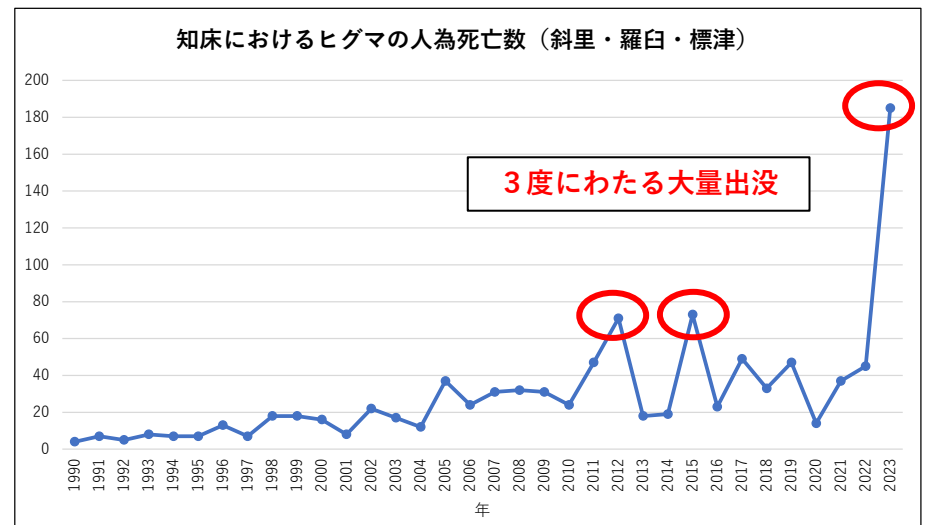
※2023年は10月末日時点での集計値



※2023年は10月末日時点での集計値



※2023年は10月末日時点での集計値



※一部データは北海道庁より提供

遺産地域で生じている問題の一例



近距離でヒグマの撮影を行う利用者



ヒグマを観察する利用者が引き起こす交通渋滞「クマ渋滞」



©Shiretoko Nature Foundation. 知床財団

不法投棄されたゴミをくわえるヒグマ



車両に手をかけるヒグマ（問題個体）

生活圏や周縁部で生じている問題の一例



各種対策の取り組みの一例 -対ヒト-

【地域住民への普及啓発】



地域住民との意見交換

【利用者への普及啓発】



普及キャンペーン



Web媒体での情報発信

【法制度・利用システムの整備】



教育機関でのヒグマ学習



利用調整地区レクチャー



新たな公園利用システムの試行



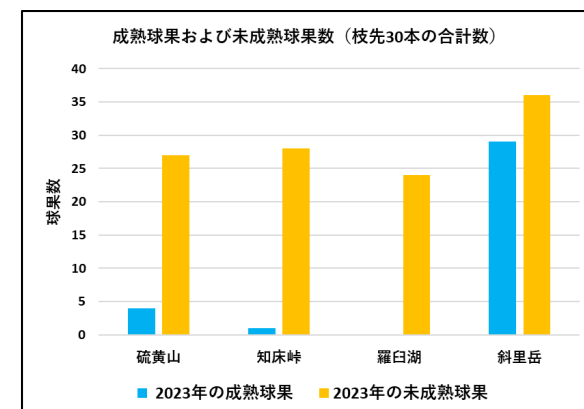
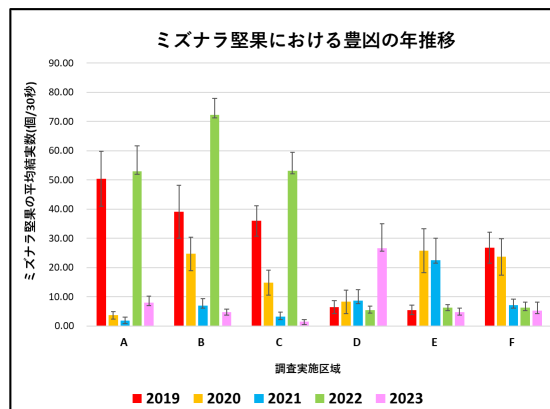
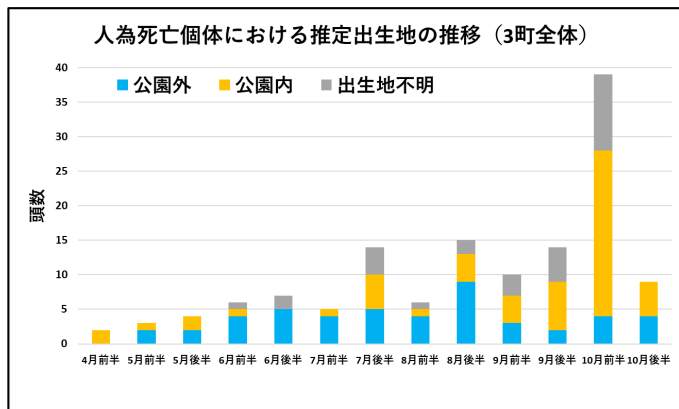
自然公園法の改正

調査研究の取り組みの一例

【 DNA分析による個体情報の収集 】

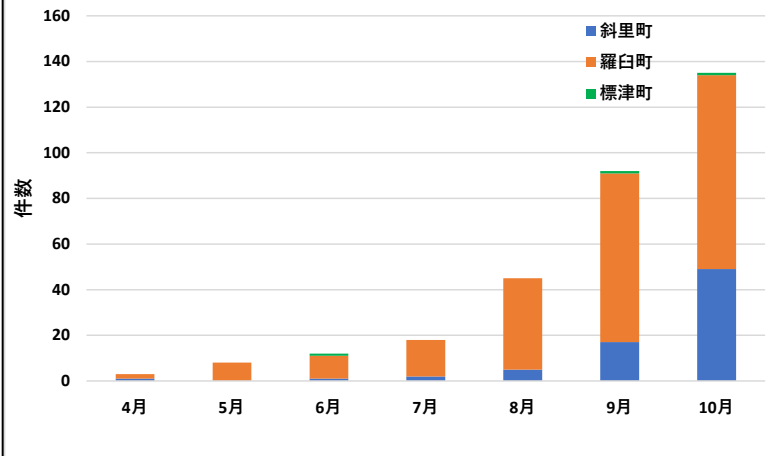


【 自然食物の資源量調査 】

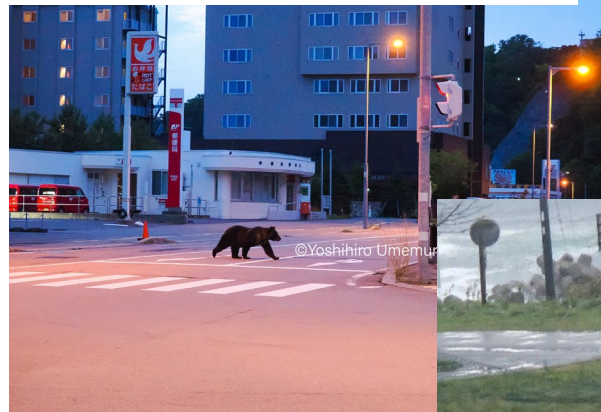


大量出没の発生状況（2023年）

2023年度市街地（ゾーン4）における
ヒグマ出没件数の月次推移



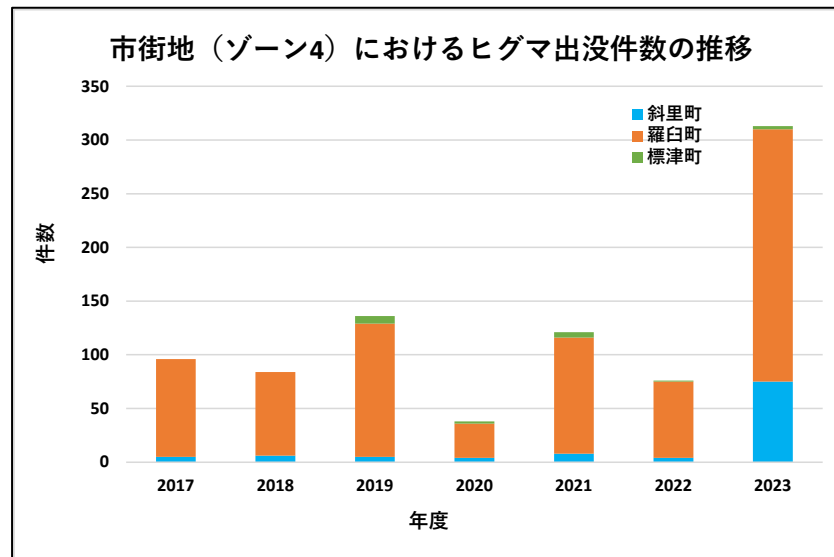
斜里町のウトロ市街地の中心部を徘徊するヒグマ



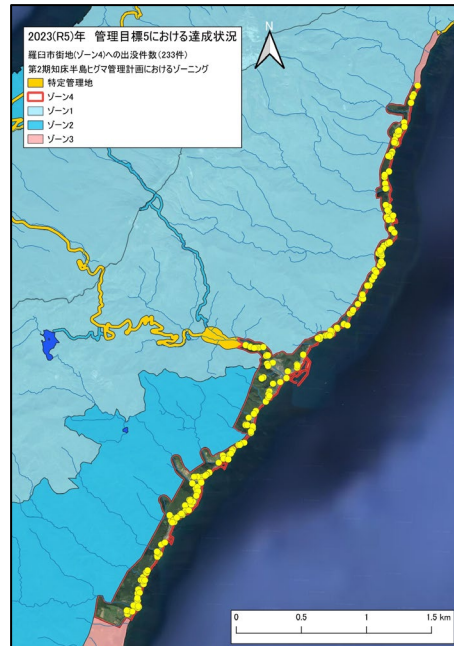
羅臼町岬町で土饅頭を作り滞留するヒグマ

- ・斜里町、羅臼町ともに8月から出没が急増した。また、過去に発生した大量出没を大きく上回る規模で市街地や周縁部での出没が多発した。
- ・夏期から秋期のヒグマの主な餌資源となるカラフトマスの遡上不良やハイマツ・ミズナラの凶作による餌不足により、ヒグマが餌を求めて通常より広範に活動していることが、大量出没の主な発生原因と考えられている。
- ・ただし今年発生した大量出没については、比較的早い時期から市街地や周縁部での出没が発生しており、餌資源以外の原因（環境収容力の飽和など）も考えられる。

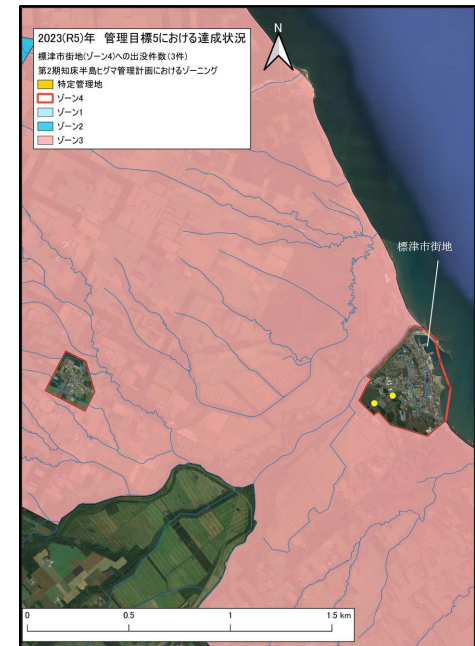
- ・斜里町では、9月から10月にかけて、常態的に複数頭のヒグマがウトロ市街地への出没を連日繰り返しており、人身事故になりかねない状況が度々発生した。また、半島基部の斜里市街地や周縁部においても例年以上にヒグマの出没や痕跡が確認された。
- ・羅臼町では、干し魚を狙ったヒグマが倉庫等の屋内に侵入する事案や漁港内へ繰り返しヒグマが侵入する事案、生活圏でヒグマが土饅頭を作り滞留する事案などが発生した。



斜里町のウトロ市街地におけるヒグマ出没状況



羅臼町の市街地におけるヒグマ出没状況



標津町の市街地におけるヒグマ出没状況

知床でのヒグマのマネジメントの課題

管理方針の見直し・新たな視点でのマネジメントの必要性

- ⇒ 現行の施策のみでは、個体群の維持と被害防止のバランス維持が困難。
- ⇒ 大量出沒による被害抑制が困難。急激な死亡数増による個体群への影響の懸念。
- ⇒ 個体数の増減に応じた管理施策、調査研究で得た知見を施策へ反映。

マネジメント現場への財政支援・法制度整備の必要性

- ⇒ 持続的な施策推進のため、管理主体の自治体や協議会への財政支援が必要。
- ⇒ 被害の拡大・リスクの長期化を回避するための迅速な対応、法制度の柔軟性。